垂直離着陸機 V-22

V-22 はアメリカのベル社とボーイング・バートル（現ボーイング・ロータークラフト・システムズ）が共同で開発したティルトローター機（垂直離着陸、水平飛行両用機）

愛称はオスプレイ（Osprey：ミサゴ＝**タカ科の鳥**のこと）、初飛行は 1989 年。

仕様

全長: 17.47 m（ピトー管含まず）
全幅: 25.54 m（ローター含む）
全高: 6.63 m（VTOL 時）
ローター直径: 11.58 m
航続距離: 3,700km
空虚重量: 15.032 t
最大離陸重量
　垂直離陸時: 23.981 t
　短距離離陸時: 27.442 t
エンジン: ロールス・ロイスアリソン社製 T406(ロールス・ロイス社内名称 AE 1107C-リバティー) ×2 基
出力: 6,150 shp
最高速度
　通常時:3565 km/h
　ヘリモード時:185 km/h
離着陸距離
　貨物を載せず 24 人が乗り組んだ場合はヘリコプターのように垂直離着陸が可能

最大積載量を積んだ場合は垂直離着陸できない。離着陸には約 487m が必要
上空でエンジンを停止させて着陸する「オートローテーション」飛行訓練や単発エンジン着陸訓練、編隊離着陸などの習熟訓練には、最短で約 792m、最大で約 1,575m が必要。

普天間飛行場への配備問題

琉球新報（2009 年 12 月 12 日）

オスプレイ普天間配備可能性認める

米軍普天間飛行場への米海兵隊の次期主力輸送機 MV22 オスプレイ配備の可能性について、防衛省の高見沢将林防衛政策局長は「（米国の計画書では）普天間のヘリは、すべてオスプレイになるとの記述だ」と述べ、普天間飛行場に配備している CH46 ヘリがオスプレイに交替する可能性を認めた。

高見沢局長は「われわれ（防衛省）としてはこれは正式なものとは聞いていない」と述べ、米側から同機の配備について正式な説明は受けてないとの従来見解を繰り返した。11 日、衆院議員会館で開かれた沖縄等米軍基地問題議員懇談会で述べた。

高見沢局長は「われわれ（防衛省）としてはこれは正式なものとは聞いていない」と述べ、米側から同機の配備について正式な説明は受けてないとの従来見解を繰り返した。
11 日、衆院議員会館で開かれた沖縄等米軍基地問題議員懇談会で述べた。

普天間飛行場の代替基地として、日米合意している名護市辺野古沿岸部の代替施設へのオスプレイ配備が決まった場合の環境影響評価（アセスメント）のやり直しの必要性について、井上源三地方協力局長は「条例上、機種変更に伴いアセス手続きをやり直すということは求められていない」と述べ、アセスやり直しの必要性はないとの認識を示した。

同懇談会では、伊波洋一宜野湾市長が米軍普天間飛行場のグアム移転の可能性について講演し、議員らがその可能性について防衛省にただした。

伊波市長は、米海軍が米下院議会に示した報告書で、グアムに移転する部隊として HMM ヘリが挙げられており、HMM は普天間に配備されていることから、普天間のヘリ部隊がグアムに移転すると主張。これに対し防衛省は「グアムに移転するのは岩国基地のヘリだ。米側にも確認した」と説明。

伊波市長は「岩国のヘリは HMH でありHMM ではない」と反論、出席した民主、社民、共産などの議員も防衛省に文書による米側への確認と議員への説明を求めた。

琉球新報（2010 年 9 月 11 日）

米、オスプレイ配備公言　日本にも伝達済み

モレル米国防総省報道官は 9 日の記者会見で、米海兵隊次期輸送機ＭＶ22オスプレイ配備について「われわれはオスプレイを日本で運用するつもりで、日本政府にもそう伝えている。ある段階で、在日米軍基地に配備される」と日本配備を認め、既に日本側にも伝達していることを明らかにした。

具体的な基地や時期は明言しなかったが、米政府高官がオスプレイの日本配備を公言するのは初めて。

オスプレイは垂直離着陸と水平飛行がそれぞれ可能な航空機だが、試験飛行段階から墜落事故が 3 度起き、多数の米兵の犠牲者を出しており、配備されれば、周辺自治体や住民から反発が起きるのは必至だ。

モレル氏は「（オスプレイは）非常に効果的な航空機で、同盟能力を高める」と強調した。

米軍普天間飛行場代替施設の日米共同使用については「今回の専門家協議とは別の協議で、同盟の防衛体制の効果を向上させるため、共同使用の拡大を話し合っていく。

協議が始まるのを期待している」と述べ、協議を始める考えを示した。
両国外務、防衛相が会談する日米安全保障協議委員会（2プラス2）開催時期については「決まっていない。4人の日程を合わせるのは簡単ではない」と述べた。

琉球新報（2009年12月12日）
オスプレイ普天間配備可能性認める
米軍普天間飛行場への米海兵隊の次期主力輸送機（MV22）オスプレイ配備の可能性について、防衛省の高見沢将林防衛政策局長は「（米国の計画書では）普天間のヘリは、すべてオスプレイになるとの記述だ」と述べ、普天間飛行場に配備しているCH46ヘリがオスプレイに交替する可能性を認めた。
高見沢局長は「われわれ（防衛省）としてはこれは正式なものとは聞いていない」と述べ、米側から同機の配備について正式な説明は受けてないとの従来見解を繰り返した。
11日、衆院議員会館で開かれた沖縄等米軍基地問題議員懇談会で述べた。
普天間飛行場の代替基地として、日米合意している名護市辺野古沿岸部の代替施設へのオスプレイ配備が決まった場合の環境影響評価（アセスメント）のやり直しの必要性について、井上源三地方協力局長は「条例上、機種変更に伴いアセス手続きをやり直すということは求められていない」と述べ、アセスやり直しの必要性はないとの認識を示した。
同懇談会では、伊波洋一宜野湾市長が米軍普天間飛行場のグアム移転の可能性について講演し、議員らがその可能性について防衛省にただした。
伊波市長は、米海軍が米下院議会に示した報告書で、グアムに移転する部隊としてHMMヘリが挙げられており、HMMは普天間に配備されていることから、普天間のヘリ部隊がグアムに移転すると主張。
これに対し防衛省は「グアムに移転するのは岩国基地のヘリだ。米側にも確認した」と説明。
伊波市長は「岩国のヘリはHMHでありHMMではない」と反論、出席した民主、社民、共産などの議員も防衛省に文書による米側への確認と議員への説明を求めた。